

第5章

佐賀県の自然
【No.1】

佐賀県の植物

県内各地では、気候の変化に耐えて長い時間を生き抜いてきた巨木や、湿地や海岸などさまざまな環境で生育する植物を見ることができます。

■川古かわこのクス (武雄市若木町)

川古地区にあるクスノキ。樹高26m、幹回り21m、枝張り東西26m、南北約33mの巨木です。樹齢1000年を超えていると言われています。



(佐賀県教育委員会 提供)

国の
天然記念物に
指定された
樹木

■下合瀬しもあわせの大カツラおお (佐賀市富士町)

山神やまのかみの御神木ごしんぎで、樹齢は推定1000年。樹高34m、根の回りは13.8m、枝張りは周囲37m。4～5月に赤い花が咲きます。



(佐賀県教育委員会 提供)

■高串たかくしのアコウあこう自生北限地帯 (唐津市肥前町)

肥前町高串はアコウが自生する北限地です。高串港近くの切り立った砂岩に10数株が自生しています。大きなアコウは樹齢180年ほどと推定されています。樹高約7m。幹から「氣根」と呼ばれる根が垂れ下がっています。



(佐賀県教育委員会 提供)

※このページは、佐賀県文化財データベース「国指定(天然記念物の部)01」2015(平成27)年更新を参考に作成

九州おぼの尾瀬おぼ 「櫻原かしのぼ湿原」 の希少植物

■サギソウとミツガシワ (唐津市七山)

高原性湿地には335種類以上の植物が自生しています。3～4月には水河期みづがわの遺存種「ミツガシワ」、夏にはサギが飛んでいるような形をした「サギソウ」の花が咲き乱れます。



ミツガシワ (佐賀県県民環境部有明海再生・自然環境課 提供)



サギソウ (吉田喜美明氏 提供)



櫻原湿原 (佐賀県県民環境部有明海再生・自然環境課 提供)

■シチメンソウ (佐賀市東与賀町)

東与賀海岸に群生する塩生植物えんせいしょくぶつです。塩水に浸るような環境でも生きられる植物のことです。秋になると真っ赤に色づくことから、「海の紅葉」と言われています。

有明海沿岸



(佐賀県観光連盟 提供)

(佐賀県観光連盟 提供)



玄界灘沿岸



(吉田喜美明氏 提供)

■ハマオモト(ハマユウ) (玄界灘沿岸)

玄海灘沿岸に群生する海浜性植物かいひんせいしょくぶつです。海浜性植物とは、海岸の砂浜すなに育つ植物のことです。7月中旬頃、白い花が咲きます。

有明海と
玄界灘の
海岸に群生
する植物

玄界灘沿岸



(吉田喜美明氏 提供)

■ショウロ (唐津市虹の松原)

クロマツが群生する「虹の松原」の砂地に生えるキノコ。ショウロ(松露)は、約40年前には春と秋にたくさん見ることができましたが、今では希少です。

調べて
みよう!

国指定の天然記念物の
樹木にはどんなものがあるのかな。



佐賀県の概要
第1章

佐賀県の歴史
第2章

佐賀県の人物
第3章

佐賀県の文化
第4章

佐賀県の自然
第5章

佐賀県の産業
第6章

佐賀県の食文化
第7章

佐賀県の山や川、平野、海浜には、他県では見ることができない多彩な淡水魚や希少な哺乳類、昆虫類、両生類が生息しています。

川や
ため池に
生息する
淡水魚



(田島正敏氏 提供)

■ニッポンバラタナゴ
(絶滅危惧種)

方言名/たばや、でんばや、
べんばや 全長 約5cm

繁殖期、メスの気を引くために、オスの体はキラキラと輝く美しいバラ色に変わります。近年は外来のタイリクバラタナゴの侵入のため、絶滅の危機にあります。

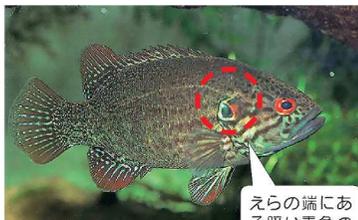


(田島正敏氏 提供)

■アリアケギバチ (絶滅危惧種)

方言名/ぎゅうぎゅう、ぎんぎよばち、
ぎんぎよ 全長 約25cm

陸に上げると胸ビレ付近の骨をすり合わせてギューギューと音を出します。胸ビレと背ビレのとげには毒があるため、触るとハチに刺されたような痛みを感じます。これらの特徴から、「ぎゅうぎゅう」や「ぎんぎよばち」などの方言名がつけました。



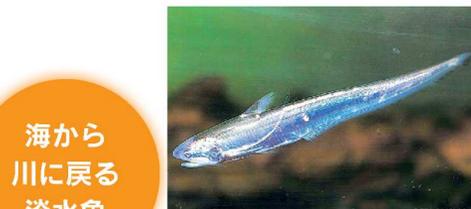
(田島正敏氏 提供)

■オヤニラミ

方言名/よつめ、よるめひるめ
全長 約12cm

えらの端にある目のような模様が、頭部にある本物の目を睨んでいるように見えることから、オヤニラミの名が付いたと言われています。オヤニラミより方言名の「よつめ」で知られています。

えらの端にある
暗い青色の
丸い模様が目
に見えます。



(田島正敏氏 提供)

■エツ

方言名/うばえつ
全長 約40cm

世界中で有明海湾奥部にだけ生息する魚です。5月～9月に筑後川や六角川で産卵します。稚魚は川やクリークで生育した後、11cmになると有明海に入ります。



(田島正敏氏 提供)

■ハゼクチ

方言名/はしくい、ながれはしくい、はぜ
全長 約60cm

日本では有明海湾奥部だけに生息しています。春から秋に川で生活しますが、晩秋に有明海に入り、3月頃産卵します。寿命は1年の魚ですが、最大60cmになることもあります。ハゼクチに似たマハゼは玄界灘側にも生息します。マハゼの全長はハゼクチの半分ほどです。

九州の尾瀬
「櫻原湿原」に
生息する
昆虫類



(吉田善美明氏 提供)

■ハッチョウトンボ
(唐津市七山)

全長 約2cm

ハッチョウトンボは、日本にいるトンボの中では一番小さいトンボです。櫻原湿原では6月中旬から8月中旬に成虫が出現します。オスは鮮やかな赤色をしています。

山に
生息する
希少な
哺乳類



(副島和則氏 提供)

■ヤマネ (国指定天然記念物)
(藤津郡太良町)

全長 約7～8cm

標高983mの多良岳に生息する哺乳類です。リスのようなとてもかわいらしい姿をしています。木の穴に巣を作って冬眠します。夜行性なので、ほとんどその姿を見ることはありません。

■カジカガエル
(佐賀市富士町)

全長 約3～8cm

清流のシンボル、カジカガエルは、県内の山間部の溪流域に生息しています。夏になると目没後、オスは岩の上で鹿に似た美しい声でメスに向かって求愛します。

(吉田善美明氏 提供)



清流に
生息する
両生類

玄界灘
沿岸に生息
する希少な
昆虫類



(吉田善美明氏 提供)

■ヤマトマダラバッタ
(唐津市虹の松原)

全長 約3～4cm

自然にできた砂浜海岸にしか生息できないヤマトマダラバッタ。8月から10月に活発に動き回ります。虹の松原と西の浜に生息し、絶滅が危惧されています。

見どころスポット

佐賀県立宇宙科学館

住所：武雄市武雄町永島16351
電話：0954-20-1666
開館時間：【平日（火～金）】9時15分～17時15分
【土・日・祝日】9時15分～18時
休館：毎週月曜日（祝日の場合、翌日）
料金：大人520円、高校生310円、小・中学生200円、
幼児（4歳以上）100円

櫻原湿原

住所：唐津市七山池原
電話：0955-53-7175
(唐津市七山
市民センター)



第5章

佐賀県
の自然
【No.3】

佐賀県の化石

大昔の生き物の姿や足跡が地層の中に残されたものが化石です。県内にも約4000万～2000万年前頃の化石が産出し、当時の環境などを教えてください。

県内で産出した化石

カプトガニの足跡 (レプリカ)



(佐賀県立宇宙科学館 蔵)

20～30cmの間隔でついたカプトガニの足跡。この化石は約4000万年前頃のものです。足跡の横に、カプトガニの尾剣(しっぽ)の跡も見られます。

産地：武雄市東川登町 北永野採石場

アミノドン

約4000万年前頃に生息していたサイの一種です。水辺に生息していたことが分かっています。化石は、北海道雨竜炭田、山口県宇部炭田、佐賀県唐津炭田などから産出されています。



(佐賀県立宇宙科学館 蔵)

大型アミノドンの右腕の骨の一部 (レプリカ)

産地：伊万里市大川町 立川炭鉱坑内



(不動寺康弘氏 提供)

アミノドンの歯の一部

産地：唐津市北波多 平野峠

ナウマンゾウ

約40万年前に大陸から渡ってきて2万年前までの氷期に生息していたと言われるゾウの一種です。日本列島の広い範囲で化石が産出されています。



(佐賀県立宇宙科学館 蔵)

ナウマンゾウの左下第2大臼歯

産地：唐津市呼子町 烏帽子島沖の海底

ポイント

ペンギンモドキは、最新の研究によると、脳の形からペンギンの仲間の可能性が考えられています。



(不動寺康弘氏 提供)

ペンギンモドキの大腿骨 (太ももの骨)

産地：東松浦郡玄海町 座川内

約3500万年前に北部太平洋などに生息し、海の中で小魚などをとって食べていました。北海道、福岡県、佐賀県(多久市、伊万里市、唐津市、玄海町)などで化石が見つかっています。

生きている化石

化石で発見された太古の形態と変わらず、今も同じ姿で存在する生物は「生きている化石」と呼ばれています。

ムカシトンボ



(吉田善美明氏 提供)

約2億～1億5000万年前に堆積した地層から産出したトンボの化石とはほぼ同じ外部形態をし、止まる時に翅を閉じて枝にぶら下がります。脊振山地や多良山系の源流域に生息し、成虫は4月下旬～6月上旬に出現。成虫になるまで7年を要します。日本特産種。

ミドリシャミセンガイ



(やながわ有明海水族館 提供)

約5億年前に出現し、現在まで形や大きさは同じです。現在、有明海以外では絶滅したか激減しました。貝の仲間ではありません。有明海沿岸では「めかじゃ」と呼び、古くから煮つけて食べていました。

カプトガニ (左：メス、右：オス)



(佐賀県立宇宙科学館 蔵)

約2億年前に堆積した地層から産出した化石とほぼ同じ外部形態をしています。カニの仲間ではなく、クモの仲間の動物で、伊万里湾にあるカプトガニ繁殖地は天然記念物として保護されています。

佐賀県の地名などがつけられた化石

現在も各地でさまざまな化石が発見されています。新種の化石には、産出した場所や人の名前がつけられることがあります。



カラツ チョウチン ガイ

産地：唐津市
相知町佐里

(不動寺康弘氏 提供)



ヨコヤマ オウムガイ

産地：唐津市
北波多津田

(佐賀県立宇宙科学館 蔵)

見どころスポット

佐賀県立宇宙科学館

住所：武雄市武雄町永島 16351

電話：0954-20-1666

開館時間：【平日(火～金)】

9時15分～17時15分

【土・日・祝】9時15分～18時

休館：毎週月曜日(祝日の場合、翌日)

料金：大人520円、高校生310円、

小・中学生200円、幼児(4歳以上)100円



キシマ トリガイ

産地：唐津市
北波多平野

(不動寺康弘氏 提供)



佐賀県の概要
第1章

佐賀県の歴史
第2章

佐賀県の人物
第3章

佐賀県の文化
第4章

佐賀県の自然
第5章

佐賀県の産業
第6章

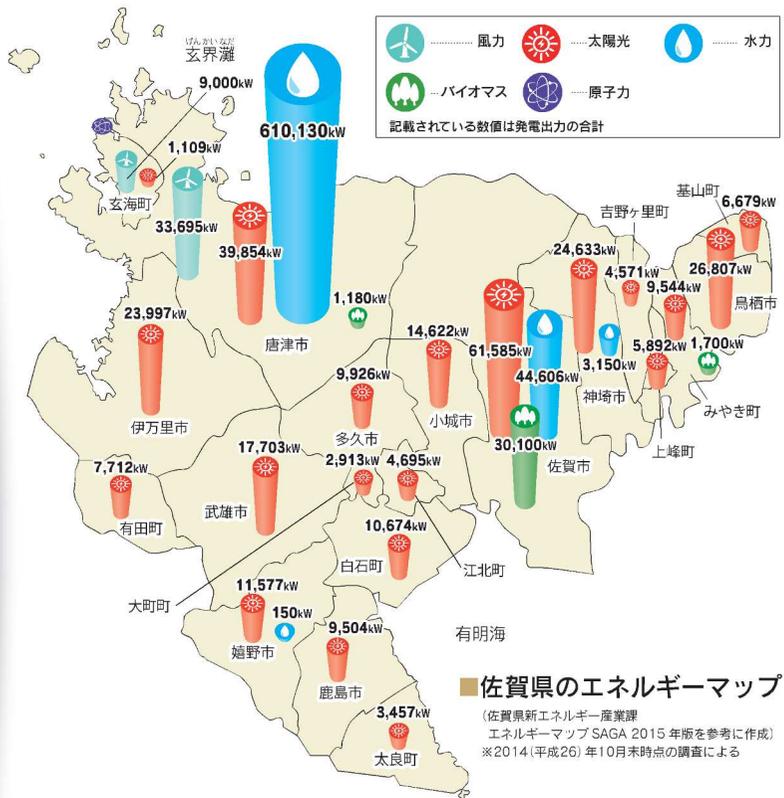
佐賀県の食文化
第7章

第5章

佐賀県の自然
【No.4】

佐賀県のエネルギー

日々の生活に欠かせないエネルギー。佐賀県では石炭や石油に代わって、原子力、水力、風力、太陽光などさまざまなエネルギー源が私たちの暮らしを支えています。



□エネルギーの移り変わり

江戸時代から昭和40年代前半までエネルギー源は石炭。特に佐賀は炭鉱が多く、良質な石炭の産出地として知られていました。幕末・明治初期には、佐賀県の出炭量は全国の約30%を占めていました。昭和40年代後半には石炭に代わって石油、昭和50年代には原子力が登場します。現在は、水や風、太陽光などの再生可能エネルギーの開発が進んでいます。



炭鉱のシンボル 煙突 (太良町公民館 提供)

□再生可能エネルギー

■太陽光エネルギー



吉野ヶ里メガソーラー発電所 (神埼市神埼町) (佐賀県 提供)
吉野ヶ里メガソーラー発電所は、サッカーグラウンド20数個分の広さで、3600世帯分の電力がまかなえます。佐賀県は、住宅用太陽光発電システムが普及しています。

■海洋再生可能エネルギー

○海洋温度差発電
太陽の熱で温められた海の表層部分の水と、海の深い部分にある冷たい水の温度差を利用した発電方法の研究や実験などが行われています。



佐賀大学海洋エネルギー研究センター伊万里サテライト (伊万里市山伏町) (佐賀大学海洋エネルギー研究センター 提供)

○洋上発電
唐津市加部島沖は波や潮の流れ、風のエネルギーを利用した洋上発電の実証フィールドに選定されています。

■水素エネルギー

水素エネルギーは貯蔵ができる再生可能エネルギーです。燃料電池自動車に利用されています。

□原子力エネルギー



玄海原子力発電所 (東松浦郡玄海町) (九州電力 提供)
岩盤の強さが決め手となって、玄界灘が目の前に広がる玄海町値賀崎に玄海原子力発電所が建設されました。1号機は2015(平成27)年に、2号機は2019(平成31)年に運転終了となりましたが、3、4号機を合わせた電気出力は236万kWで、稼働時には県外にもエネルギーを送っています。

■風力エネルギー



唐津市湊風力発電 (唐津市湊町) (自然電力株式会社 提供)
玄界灘に面した唐津市や玄海町など強い風が吹き付ける場所に風力発電の施設があります。

■水力エネルギー



中床庭ダムの小水力発電 (鹿島市大字山浦) (佐賀県河川砂防課 提供)

水の力を利用した水力発電所は、天山や脊振山などの高低差のある山に設置されています。中床庭ダム(鹿島市)では、2016(平成28)年4月から放流水を利用した県内初の小水力発電が始まっています。

■バイオマスエネルギー

生ごみや下水処理するときに出る汚泥、製材所から出る木くず、家畜の排せつ物など、廃棄物を資源にしてエネルギーを作り出しています。

見どころスポット

佐賀市エコプラザ

住所：佐賀市高木瀬町長瀬2369
電話：0952-33-0520
開館時間：10時～17時
休館：毎週水曜日、年末年始
料金：無料
※10人以上の団体は予約が必要



佐賀県の概要
第1章

佐賀県の歴史
第2章

佐賀県の人物
第3章

佐賀県の文化
第4章

佐賀県の自然
第5章

佐賀県の産業
第6章

佐賀県の食文化
第7章

第5章

佐賀県の自然
【No.5】

佐賀県の岩石・鉱物

佐賀県の大地はマグマが冷えて固まった火成岩や、土砂や火山灰が堆積した堆積岩、熱や圧力で変化した変成岩などで構成されています。これらの岩石をつくる小さな粒が鉱物です。



(佐賀県立宇宙科学館 蔵)

花崗岩

マグマが地下深部で冷えて固まったものです。石垣や墓石などに利用されます。

【主な分布地】

脊振山地など



(佐賀県観光連盟 提供)

玄武岩

玄武岩質のマグマが吹き出して冷えて溶岩台地を作りました。

【主な分布地】

国見山(伊万里市)、東松浦半島など



(佐賀県立宇宙科学館 蔵)

安山岩

安山岩質のマグマが噴き出して冷えて固まったものです。石材や砕石として利用されます。

【主な分布地】

多良山地など



(佐賀県立宇宙科学館 蔵)

球状閃緑岩

国内でも珍しい球状閃緑岩。同心球状の模様が特徴です。相浦地区ではカイガラ石、ヨーロッパではナポレオン石と呼ばれています。

【主な分布地】

多久市



(佐賀県立宇宙科学館 蔵)

輝石

安山岩や玄武岩などに見られる鉱物。伊万里市の西ヶ岳で、大きな結晶が発見されました。

【主な分布地】

伊万里市



(佐賀市教育委員会 提供)

黒曜石

流紋岩質のマグマが急に冷えてできたガラス質の岩石。縄文時代や弥生時代は矢じりなどに利用しました。

【主な分布地】

腰岳付近(伊万里市、有田町)



(佐賀県立宇宙科学館 蔵)

陶石

流紋岩が熱水の作用により変質してできました。磁器の原料として使われています。

【主な分布地】

有田町周辺



(佐賀県立宇宙科学館 蔵)

火山弾

火山の噴火で噴き出したマグマが、地面に到達する前に冷えて固まったものです。

【主な分布地】

太良町の竹崎島、多良岳

見どころスポット

佐賀県立宇宙科学館

住所: 武雄市武雄町永島16351

電話: 0954-20-1666

開館時間: 【平日(火~金)】

9時15分~17時15分

【土・日・祝】9時15分~18時

休館: 毎週月曜日(祝日の場合、翌日)

料金: 大人520円、高校生310円、

小・中学生200円、幼児(4歳以上)

100円

